精神病患者發熱療法時ニ於ケル widal 氏反應ノ凝集度

金澤醫科大學精神病學教室(主任早尾教授)

專攻生 岡 部 保

Ho Okabi

(昭和12年8月24日受附)

抄 錄

昭和8年ヨリ昭和10年迄ニ松原病院在院中ノ精神病患者ニ各種發熱療法ヲ施行シ,内「ズルフロール發熱療法31例,「マラリア發熱療法15例及ビ「ゴノワクチン發熱療法5例ニ就キ其ノ治療前,發熱時及ビ治療後ノ3期ニ亘リ血液W氏反應凝集度ヲ檢査シ(傳研製診斷液使用)次ノ結論ヲ得タリ.

- 1) 發熱時凝集度最モ高ク次ハ治療後(2日-18日)ニシテ治療前最モ低シ.
- 2) 「ズルフロール發熱療法時ニ於テハ初期發熱時(1-5回目)ョリ後期發熱時(6-13回目)ハ僅ニ凝集度上昇ス.
- 4) 凝集度ハ腸チフス診斷液ニ對シ最モ高ク, P.B 診斷液之レニ次ギ, P.A 診斷液ニ對シ殆ンド變化ヲ 認メ得ザリキ.

目 次

緒 言

第2項ノ總括

第1章 檢查材料及ビ檢查方法

第3項 「ゴノワクチン 殺熱療法時 ニ

第2章 檢查成績

於ケルWadal 氏反應ノ凝集度

第1項 「ズルフロール 酸熱療法時 =

第3項ノ總括

於ケル Widal 氏反應ノ凝集度

第3章 總 括

第2項 「マラリア 發熱療法時ニ於 ケ

第4章 考 按

ル Widal 氏反應ノ凝集度

第1項ノ總括

氏反應ノ凝集度 文

緒言

非「チフス」性疾患ニ於テ Widal 氏反應凝集價高度ヲ示ス場合アルハ屢々報告セラル、處ナリ. 余ハ亦曩ニ精神病患者ヲ種々ナル條件下ニ於テ檢査シ高度ナル凝集度ヲ認メ得タリ. 更ニ該患者ノ發熱療法時ニ於ケル該反應ノ凝集度ヲ檢査スルコトハ興味アルコトナリト考へ玆ニ檢査ニ從事シ, 其ノ結果ヲ報告セントス.

第1章 檢査材料及ビ檢查方法

検査材料 昭和8年ョリ昭和10年8月迄在院治療中ノ精神病患者ヲ選ビタリ、但シ全テ既往ニ於テ「チフス」罹患及豫防接種ノ有無不明ナリ、

探血期 間各種發熱療法時ニ於テ其ノ治療前及ビ酸熱時ノ比較的高熱期及ビ治療後2-18日ニ於ケル期間ナリ

検査方法 採血後分離セシ 血清 ヲ 55°C ニ 30分間 靜置シ, 非働性トナシタルモノヲ 小試験管内ニテ 25倍, 50倍, 100倍, 200倍, 500倍, 1000倍, 2000倍 (但シ「パラチフス A ハ50倍稀釋ヲ 最低トス)ニ稀釋セシメ、之ニ傳染病研究所製勝チフス」、「パラチフス A 及ビB各診斷液ヲ一滴ヅ、滴加セシメ充分振盪シ、孵卵器内ニ 37°C 2 時間靜置後室温ニ放置シ、24時間後検査セリ、 尚肉眼ニテ 判然セル凝集ノ 程度ニョリ ⊕、 ⊕・ ⊕・ ラ類シ、「ルーペ」ヲ以テ漸ク認メタルモノハ⊕トス、又「25ー」及ビ「50ー」ハ其ノ稀釋倍ニ於テ陰性ナルコトヲ示ス、以下「パラチフス A ヲ P.A ニ、「パラチフス B ヲ P.B ト略記ス

第2章 檢 查 成 績

第1項 「ズルフロール發熱療法時ニ於ケル Widal 氏反應ノ凝集度

注射前31例ノ所見

- 1) 腸チフス」診斷液25倍陰性6例,陽性10例,50倍陽性6例,100倍陽性9例ニシテ共ノ平均ハ46.7倍ナリ.
 - 2) P.A 診斷液 50倍陽性1例他ハ悉ク陰性ナリ. 平均ハ(1.6)倍ナリ.
 - 3) P.B 診斷液 25倍陰性17例,陽性10例,50倍3例,200倍1例,平均19.3倍ナリ. 發熱時第一次檢查40例(1回-5回目發熱)ノ所見
- 1) 腸チフス」診斷液 25倍陰性 4 例, 25倍, 50倍各陽性 8 例, 100倍陽性13例, 200倍陽性 7 例, 平均 82.5倍ナリ.
 - 2) P.A 診斷液 200倍1例ヲ除キ他ハ悉ク50倍陰性ナリ. 其ノ平均ハ(5)倍ナリ.
- 3) P.B 診斷液 25倍陰性17例,陽性16例,50倍陽性6例,200倍陽性1例ニシテ其ノ平 均へ22.5倍トナル.

發熱時第2次檢查40例(6回-13回目發熱)ノ所見

- 1) 腸チフス」診斷液25倍陰性,陽性各 4 例、50倍陽性10例,100倍陽性16例,200倍陽性6 例ニシテ平均ハ85倍ナリ.
 - 2) P.A 診斷液 100倍陽性 1 例, 200倍陽性 2 例, 他ハ悉ク50倍陰性ナリ. 其ノ平均ハ(12.5)倍トナル.
- 3) P.B 診斷液 25倍陰性17例,陽性15例,50倍陽性7例,200倍陽性1例,平均23.1倍トナル.

治療後(2日-18日後)40例ノ所見

- 1) 腸チフス」診斷液25倍陰性8例,陽性11例,50倍陽性6例,100倍陽性14例,200倍陽性1例ニシテ其ノ平均ハ54.3倍トナル.
 - 2) P.A 診斷液 50倍, 100倍及ビ200倍陽性各1例ニシテ 他ハ悉ク 陰性ナリ. 其ノ平均

第 1 表 「ズルフロール發熱療法前後ニ於ケル

姓 名	病 名	注	射	前		發 熱	時 第 1	次 檢	查
姓 名	病名	T	P.A	P.B	注射回數	體溫	Т	P.A	P.B
上野某♂	麻痺性痴呆	25++, 50+ 100±	50—	25±	第1クール 5回目	39°2	25++, 50+ 100±	50—	25—
					第2クール 5回目	39^2	25++, 50+ 100±	50—	25+, 50±
島田某∂	"	25 十 , 50+ 100±	50—	25—	第1クール 5回目	39°1	25+, 50+ 100±	50—	25—
					第2クール 5回目	38°8	25 ++ , 50+ 100±	50—	25—
新宅某♂	"	25+, 50±	50	25—	第1クール 5回目	38°2	25++, 50+ 100±	50—	25士
					第2クール 1回目	40°0	25+, 50±	50—	25—
村中某↑	"	25—	50—	25±	第1クール 5回目	39°2	25—	50—	25±
					第2クール 5回目	40′2	25—	50—	25—
柿木某る	"	25—	50-	25—	第1クール 5回目	40⁰0	25—	50—	25±
					第2クール 5 回目	39°2	25—	50—	25—
上野某♀	"	25 , 50+ 100±	50—	25	第 1 クール 5 回目	38°8	25++, 50+ 100±	50—	25±
					第2クール 5回目	38°9	25 , 50 100十, 200士	50—	25—
小泉某令	"	25±	50—	20-	第1クール 5回目	39°1	25+	50—	25—
					第2クール 5回目	40^0	25十,50士	50—	25—
由上某♀	1	25+, 50-	50—	25+++,50++ 100+,200±		39°3	25 111 , 50 11 200+	50—	25+++,50++ 100+,200±
三室某合	"	25 ++ , 50+ 100±	50—	25±	"	39°4	25++, 50+ 100±	50—	25±
隅田某念	"	25±	50—	25—	"	39°6	25++, 50+ 100±	50	25±
山崎某奇	"	25±	50—	25—	"	39°2	25十, 50士	50—	25
廣崎某♂	"	25—	50—	25—	1回目	38°0	25士	50—	25—
石井某♂	"	25—	50—	25—	5回目	39°3	25十,50士	50—	25++, 50+
相川某♀	"	25+, 50±	50—	25±	"	39°0	25+, 50±	50	25±
淺田某念	"	25±	50—	25±	"	38°8	25±	50—	25±
清水某令	"	25±	50—	25±	4回目	40°5	25±	50—	25±
岡村某♀	"	25++, 50+ 1 0 0±	50—	25+, 50±	5回目	3 9 °6	25 ++ , 50+ 100+, 200±	50+,100+ 200+	25+, 50±
大西某∂	"	25—	50—	25±	1回目	38°5	25±	50—	25土
前口某♂	// (脊髓癆性)	25 , 50 100±	50—	25—	第1クール 5回目	39°4	25++, 50+ 100+	50—	25—
					第2クール 1回目	38°9	25+++,50++ 100-+,200±	50	25+
中村某↑	早發性痴呆	25計, 50十 100士	50±	25—	第1クール 5回目	39 6	25++, 50+ 100+, 200±	50—	25—
中西某♂	"	25+, 50±	50—	25±	"	39°5	25++, 50+ 100±	50—	25+, 50±
長田某令	"	25+	50—	25±	4回目	40°4	25+, 50±	50—	25±
中村某♀	"	25±	50—	25—	5回目	42°1	25+, 50±	50—	25—

Widal 氏反應凝集度ノ消長

	發素	熟 時 第 2	? 次 檢 查			治	療	
注射回數	體溫	Т	P.A	P.B	最終發熱 後 經 過	Т	P.A	P.B
第1クール 10回目	39°3	25++, 50+ 100+,	25 ++ , 50+ 100+, 200±	25+, 50±	7日	25十,50十 100±	25+, 50+ 100±	25±
第2クール 10回目	39°5	25+, 50+ 100, +200±	50—	25+, 50±	18日	25 ++ , 50+ 100±	50—	25±
第 1 クール 10回目	39°0	25+. 50+ 100±	50—	25—	8 日	25—	50—	25—
第2クール 10回目	38°3	25 ++ , 50+ 100±	50	25—	7日	25 ++ , 50+ 100±	50++, 100+ 200±	25—
第 1 クール 13回目	39°0	25++, 50+ 100±	50—	25—	"	25±	50—	25—
第2クール 7回目	39°7	25+, 50+ 100±	50—	25—	"	25+, 50±	50—	25—
第 1 クール 10回目	39°4	25	50—	25±	"	25—	50—	25—
第2クール 10回目	38°6	25—	50—	25—	"	25—	50—	25—
第1クール 1 0 回目	38°8	25—	50—	25±	"	25—	50—	25±
第2クール 11回目	39°0	25—	50—	25—	"	25—	50—	25—
第 1 クール 10回目	37°3	25 ++ , 50+ 100+, 200±	50—	25—	"	25 ++ , 50+ 100+	50—	25+, 50±
第 2 クール 10回目	38°8	25 . 50 100- -	50—	25—	"	25+, 50+ 100±	50	25—
第 1 クール 10回目	39°9	25+, 50±	50—	25—	"	25±	50	25—
第.2 クール 9 回目	3 9 °5	25+, 50±	50—	25—	8日	25±	50—	25—
第 1 クール 10回目	39'3	25#+, 50+ 100+	50—	25+++,50++ 100+,200士	7日	25++, 50+ 100+, 200±	50—	25 , 50+ 100+, 200±
"	39°2	25 , 50+ 100±	50—	25—	10日	25 ₁₁ 1, 50+ 100±	50—	25—
8回目	40°0	25 ++ , 50+ 100+	50—	25±	7日	25 , 50+ 100±	50—	25—
11回目	37°6	25士	50—	25—	"	25±	50—	25—
10回目	39°0	25±	50—	25—	8日	25—	50—	25—
9回目	39°1	25+, 50±	50—	25±	2日	25±	50—	25—
10回目	39°8	25 , 50+ 100±	50—	25±	"	25±	50—	25—
"	40°2	25+, 50±	50—	25±	.7日	25—	50	25—
6回目	40°5	25+, 50±	50—	25±	"	25±	50—	25—
10回目	40^2	25 ++ , 50+ 100+	50十,100±	25+, 50±	"	25 十 , 50十 100士	50±	25±
7回目	39°0	25±	50—	25±	"	25±	50—	25—
第 1 クール 10回目	38 6	25+++, 50++ 100+, 200±	50	25±	"	25++, 50+ 100±	50—	25—
第2クール 9回目	39°2	25++, 50+ 100+, 200±	50-	25±	"	25 ++ , 50+ 100+	50—	25—
第 1 クール 10回目	40°0	25++, 50+ 100+, 200±	50 ++ , 100+ 200+	25—	16日	25 , 50 100±	50	25—
11回目	39°3	25+, 50±	50—	25±	7日	25+, 50±	50—	25—
8回目	40°2	25+, 50±	50—	25±	3 日	25+	50—	25—
10回目	40°6	25+, 50±	50—	25—	7日	25+, 50±	50—	25—

山本某令	"	25—	50—	25—	"	40°0	25±	50—	25—
山田某♂	"	25+, 50±	50—	25—	"	39°8	25++, 50+ 100±	50—	25±
永井某♀	躁病	25十,50士	50—	25—	第1クール 2回目	38°7	25 ++ , 50+ 100±	50	25±
					第2クール 4回目	38°9	25++, 50+ 100±	50—	25+, 50±
長井某♀	"	25++, 50+ 100±	50—	25+, 50±	第1クール 5回目	4 0°3	25 ++ , 50+ 100+, 200±	50	25+, 50±
金平某令	ジャクソン 氏型脳黴毒	25+	50—	25—	4回目	40°4	25±	50—	25—
山谷某令	强迫觀念症	25 +, 50±	50—	25士	"	40°5	25+, 50±	50—	25±
谷某♂	ヒステリー 性幻覺症	25±	50—	25—	5回目	39'2	25±	50—	25
濱田某♂	育 髓 癆	25++, 50+ 10 0 ±	50—	25+, 50±	"	40°0	25 , 50+ 100+, 200±	50—	25±
總乙	戶 均	46.7	(1.6)	19.3			82.5	(5.0)	22.5

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25ー」ハ0トシテ計算セリ. 尚P.Aノ場合ハ「50ー」ヲ便宜上0トス.ハ(8.7)倍ナリ.

3) P.B 診斷液 25倍陰性29例,陽性9例,50倍,200倍陽性各1例=シテ平均ハ11.8倍ナリ.

第 1 項 ノ 總 括

各檢查ノ平均凝集度ヲ比較スルニ次表ノ如シ.

診斷液/種類 區 分	Т	P.A	P.B
注射前31例ノ平均	46.7	(1.6)	19.3
競熱時第1次檢查40例ノ平均	82.5	(5.0)	22.5
發熱時第2次檢查40例ノ平均	85.0	(12.5)	23.1
治療後40例ノ平均	54.3	(8.7)	11.8

備考 P.A()內數字ハ「50-」ヲ0トシタルモノナリ.

即チ腸チフス診斷液ニ於テハ 發熱時凝集度高度ニシテ第二次 發熱時最モ高度ナリ. 又治療後 ハ注射前ニ比シ高キ凝集度ヲ示 セリ.

P.A 診斷液ニ於テハ注射前ニ 比シ發熱時著シク高度ヲ示シ,

殊ニ第二次發熱時最モ著明ナリ.治療後ハ低下スルモ割合ニ高度ニ止マリ第一次發熱時ヨリ 高度ナリ.

P.B 診斷液ニ於テハ大ナル差異ヲ認メズ, 注射前ニ比シ發熱時ハ 僅ニ高度ヲ示セリ. 治療後ハ最モ低シ.

第2項「マラリア發熱療法時ニ於ケル Widal 氏反應凝集度

注射前15例ノ所見

- 1) 腸チュス」診斷液 25倍陰性1例,陽性4例,50倍陽性5例,100倍陽性,200倍陽性各1例,500倍陽性2例,1000倍陽性1例ニシテ平均ハ176.6倍ナリ.
- 2) P.A 診斷液 50倍陽性 2 例, 100 倍陽性 1 例, 他ハ 悉 ク 50倍陰性ナリ. 其ノ 平均ハ (13.3) 倍ナリ.
 - 3) P.B 診斷液 25倍陰性10例,陽性3例,50倍陽性2例,平均11.6倍ナリ. 發熱時第一次檢查15例(1回-13回目發熱)ノ所見

9回日	39°6	25±	50—	25—	"	25—	50—	25—
10回目	39°5	25++, 50+ 100±	50—	25±	10日	25++, 50+ 100±	50—	25±
第1クール 10回目	38° 5	25 ++ , 50+ 100±	50—	25±	7日	25++, 50+	50—	25—
第2クール 7回目	38°7	25 +, 50+ 100±	50—	25+, 50±	"	25++, 50+	50—	25±
第 1 クール 10回目	40°3	25 +, 50+ 100+,200±	50—	25+, 50+	"	25++, 50+ 100±	50—	25±
"	40°0	25+, 50±	50—	25—	8 ∄	25±, 50—	50—	25—
"	40°2	25 ++ , 50+ 100±	50	25+, 50±	7日	25+, 50±	50	25±
"	40°0	25+, 50±	50	25±	"	25±	50	25—
"	39°8	25++, 50+ 100+	50—	25+, 50±	"	25 ++ , 50+ 100±	50	25±
		85.0	(12.5)	23.1		54.3	(8.7)	11.8

第 2 表 「マラリア發熱療法前後ニ於ケル

	A THE STATE OF THE	注	射	ij			發 熱 馬	年第 1	次	爚
姓 名	病 名		T	1	發作				1	
		Т	P.A	P.B	回數	體溫	T		P. A	
湯淺某↑	麻痺性痴呆	25##, 50##, 100#+ 200+,500+,1000±	50+,100±	25—	10回目	39°8	25 ₊₊₊ , 50 ₊₊ , 50 ₊₊ , 1000	+,2000±	50++, 1 200+	
隅山某♂	"	25±	50—	25	4 回目	40°6	25 111 , 100+,		50-	_
間明某↑	"	25+	50—	25—	13回目	39°1	25+,	50土	50-	_
增山某∂	"	25+, 50±	50—	25±	"	40°2	25 , 100+,		50-	_
諸角某♂	"	25+, 50±	50—	25—	1回目	38°7	25十, 100士	50-	50-	_
吉村某♂	"	25 ++ , 50+ 100±	50	25+,50±	4回目	39 [°] 6	25 , 100+,		50-	_
岡島某∂	"	25±	50—	25+,50±	5回目	40°1	25+,	50土	50-	_
芝井某♂	"	25+, 50±	50—	25—	3回目	39°8	25 十 , 100±	50+	50-	-
勢田某∂	"	25±	50—	25—	6回目	41°5	25+,	50土	50-	_
宇波某♀	(幼若型)	25—	50—	25—	12回目	40°5	25=	±	50±	E
腰某♀	早發性痴呆	2007, 3001	50—	25±	8回目	40°6	25+++, 50+ 200+,500-		50-	_
竹田某♂	"	25 , 50 , 100 - 200十, 500士	50±	25—	9回目	40°3	25+H, 50H 200+,500-		50±	E
蕪城某♂	"	25##, 50#+, 100#- 200±	50±	25±	10回目	40°8	25 , 50+ 200+,		50+,1	00±
田村某令	"	25+, 50±	50—	25—	9回目	39°9	25+, 100±	50+	50-	-
中田某♀	(徽毒性)頻 癇性精神病	25+, 50±	50	25—	5回目	40′5	25+,	50±	50-	-
總平均		176.6	(13.3)	11.6			375	.0	(26.	6)

備考 總平均ヲ求ムル場合ニ於テ「25-」及ビ P.A()內ハ便宜上「50-」ハ 0 トシテ計算セリ.

1) 腸チフス」診斷液 25倍陽性1例,50倍陽性4例,100倍,200倍陽性各3例,500倍陽性1例,1000倍陽性2例,2000倍陽性1例,平均375倍ナリ.

- 2) P.A 診斷液 50倍陽性2例, 100倍陽性, 200倍陽性各1例. 他ハ陰性ニシテ平均ハ (26.6)倍ナリ.
- 3) P.B 診斷液 25倍陰性 3 例, 陽性 5 例, 50倍陽性 4 例, 100 倍陽性 1 例, 500 倍陽性 2 例ニシテ平均ハ95倍ナリ.

發熱時第二次檢查2例(13回及ビ14回目發熱)ノ所見

腸チフス診斷液 = 於テハ100倍, 200倍陽性各 1 例, P.A 診斷液ハ 2 例共 = 陰性, P.B 診斷液ハ共 = 25倍陽性ナリ.

治療後15例(3日-8日後)ノ所見

Widal 氏反應凝集度ノ消長

- 1) 腸チフス」診斷液 25倍陽性3例,50倍陽性1例,100倍陽性5例,200倍陽性3例,500倍陽性1例,1000倍陽性2例ニシテ其ノ平均ハ248倍ナリ.
 - 2) P.A 診斷液 50倍陽性 2 例, 100倍陽性 1 例, 他ハ陰性ニシテ平均 (13.3)倍ナリ.
- 3) P.B 診斷液 25倍陰性 4 例, 陽性 6 例, 50倍陽性 3 例, 200 倍, 500 倍陽性各 1 例,

發熱時第2次檢查 後 杳 治 療 發作回數 P,A Т P.A P.B т PB P.B 體溫 經 過 10回發熱 25冊, 5C冊, 100十 50+,100± $25 \pm$ 25士 $200+,500+,1000\pm$ 後8日 6 回發熱 後 7 日 25++, 50+25+, 50+ 50- $25+,50\pm$ 100± 13回發作 50-25-25-25十,50士 後7日 15回發作 25++, 50+25++, 50+ 25十,50士 50-100+, 200± 後8日 $100 \pm$ 25++, 50+ 14回發作 25+, 50+ 50-25士 50-25士 25-13回目 40°3 100+. 後7百 100± $200 \pm$ 25++ ,50+ 100+, 200± 8回發作 25#+,50++,100+ 25+++,50++,100+ 50-200+, 500± 後7日 200十, 500士 25++,50+,100+ 25#1,50++,100+ 9回發作 25土 50- $200 \pm$ 後7日 $200+,500\pm$ 6回發熱 25++, 50+ 25-50-25 +100± 後4日 8回發熱 25- $25\pm$ 50- $25\pm$ 後8日 16回發作 $25\pm$ 50-25-25-後7日 12回發作 25#, 50#, 100+ 25士 50- $25+,50\pm$ $200+,500+.1000\pm$ 後6日 13回發作 25111, 5011 200+, 500± 50士 25十,50士 25十, 50士 後7日 11回發作 25+++, 50++, 100+ $50\pm$ 25土 25十,50土 200± 後3日 13回發作 25++, 50+ 50-25士 $25 \pm$ 後6日 100土 25+, 50+ 25+, 50+ 17回發作 $25\pm$ 14回目 39°8 50-25+50-25士 100± 後7日 100± 248.0 (13.3)666 95.0

平均66.6倍ナリ.

第 2 項 ノ 總 括

各檢查平均凝集度(發熱時第二次檢查ハ2例ノミ故省略ス)ヲ比較スルニ次表ノ如シ.

氏反應凝集度ノ消長

Widal

=於ケル

ン發熱療法前後

17

A

'n

麦

3

箫

	診斷液ノ種類	Т	P.A	P:B
	注射前15例ノ平均	176.6	(13.3)	11.6
	發熱時第1次檢查15例ノ平均	375.0	(26.6)	95.0
	治療後15例ノ平均	248.0	(13.3)	66.6
•	the PA () For ETO O		Access and after	

備考 P.A()內ハ「50-」ヲ0トシテ計算セル數ナリ.

即チ 發熱時遙 カニ 凝集 度高 ク,治療後ハ腸チフス」及ビ P.B 診斷ニテハ注射前ヨリ蓍シク高 度ナリ.

溆	P.B	∓0⊊	25+,50±	25±	25±	25—	30.0	
	P.A	-05	-05	-09	20-	-09	0	
治療	H	25+,50+ 100±	25+,50+ 100±	25+,50±	254, 50+ 100±	25++, 50+ 100±	90.0	λ,
	最終發熱後 經過	7日	"	"	"	"		宜上0ト
234-	P.B	25+,50±	25+,50±	25+,50±	25±	25±	40.0	、「50-」ヲ復
밭	P.A	-09	20-	-09	20-	20-	(0)	/ 場合/
蘇	Т	25 11 , 50+ 100+, 200±	25 +1 , 50+ 100+, 200±	25+, 50±	25冊, 50井 100十, 200土	25 11 , 50+ 100±	150.0	總平均ヲ求ユル場合ニ於テ「25ー」ハ 0 トシテ計算セリ. 尚 P.A ノ場合ハ「50一」ヲ便宜上 0 トス
餟	體溫	40°3	39.0	38.8	40.6	40°2		产計算-
	在 回 動	5回目	10回目	国回 9	目回6	国回8		010
福	P.B	25±	25+,50±	25—	25—	25—	15.0	・テ「25ー」ハ
苯	P.A	-09	70∓	-05	-05	-09	(10.0)	3合一於
知	Т	25+,50±	25 11 , 50+	75∓	25±	25 11, 50+	0.09	リヲ求ムル場
	成 行	早發性縣 呆	"	*	麻痺性 案 果	"	抠	1
48			★ ②	 		★	4	備考
#	Ħ	伊藤某?	古岡某③	國谷某令	陽岡某念	高橋某令	觸	

第3項「ゴノワクチン發熱療法時ニ於ケル Widal 氏反應廢集度注射前5例1所見

- 1) 腸チフス」診斷液 25倍陽性2例,50 倍陽性1例,100倍陽性2例,平均60倍ナリ.
- 2) P.A 診斷液 50倍陽性1例,他ハ悉ク 陰性ニシテ平均(10)倍トナル.
- 3) P.B 診斷液 25倍陰性 3例, 25倍陽性, 50倍陽性各 1 例ナリ. 平均ハ15倍ナリ.

發熱時 5 例(5 回-10回目發熱)ノ所見

- 1) 腸チフス」診斷液 50倍陽性,100倍陽性各1例,200倍陽性3例,平均150倍ナリ.
 - 2) P.A 診斷液 悉ク50倍陰性, 平均(0).
- 3) P·B 診斷液 25倍陽性2例,50倍陽性3例,平均40倍ナリ.

治療後5例(7日後)ノ所見

- 1) 腸チフス」診斷液 50倍陽性 1 例, 100 倍陽性 4 例ニシテ平均90倍ナリ.
- 2) P.A 診斷液 悉ク陰性50倍ナリ,平均(0)ナリ.
- 3) P.B 診斷液 25倍陰性 1 例25倍陽性,50倍陽性各 1 例, 平均30倍ナリ.

第3項ノ總括

各檢査平均凝集度ヲ比較セバ次表ノ如シ.

即チ腸チフス」及ビ P.B 診斷液ニ對シ 發熱 時凝集度著シク高度ヲ示シ,治療後ニ於テハ 可ナリ 低下ヲ 示スモ 注射前ニ 於ケルヨリ高 シ. 又 P.A 診斷液ニ對シ發熱時及ビ治療後ハ 0 ニシテ注射前ハ10倍ヲ示スモ之ハ僅ニ1例 ニ於テノミ50倍陽性ニシテ他ハ悉ク50倍陰性 ナルヲ以テー般ニ差異ナキモノノ如シ.

診斷液/種類 區 分	Т	P.A	P.B
注射前5例1平均	60.0	(10.0)	15.0
	150.0	(0)	40.0
治療後5例1平均	90.0	(0)	30.0

備考 ()内ハ「50ー」ヲ零トシテ計算セルモノナリ.

第3章總 括

「ズルフロール」、「マラリア」及ビ「ゴノワクチン」各發熱療法時ニ於ケル Widal 氏反應所見 ヲ總括スルニ次ノ如シ

腸チフス」診斷液 發熱時最モ著明ニシテ治療後ハ比較的高度ヲ 示シ, 注射前最モ 低シ. 叉「ズルフロール發熱療法時ニ於テ發熱時第二次檢査ハ第一次檢査ョリ 僅ニ高キ 傾向ヲ示セ リ.

「パラチフス A 診斷液 一般 = 50倍陰性ヲ示スモノ多ク大差ナキモ 酸熱時僅 = 高度ヲ示ス傾向ヲ有セリ. 又治療後ハ注射前 = 比シ稍々高度ナル傾向アリ. 「ズルフロール 發熱療法時 = 於テ發勢時第二次檢査ハ第一次檢査ョリ高シ.

「パラチフス B 診斷液發熱時最モ高度ニシテ治療後ニ於テハ 注射前ニ比シ「マラリア」及ビ「ゴノワクチン」發熱療法時ニ著シク 高度ヲ示セルモ「ズルフロール」 發熱療法時ニハ 低下セリ. 又「ズルフロール發熱療法時ニ於ケル發熱時第二次檢査ハ第一次檢查ョリ 僅ニ 高キ傾向アリ.

各發熱時平均凝集度ヲ曩ニ述ベタル既往ニ於テ腸「チフス」罹患及ビ豫防接種ナキ患者89例 (殆ンド大部分精神病)ノ平均凝集度ト比較スルニ次表ノ如シ.

診斷液ノ種類 區 分	Т	P.A	P.B
「ズルフロール」第1次(40例)及 ビ第2次(40例)發熱時平均	83.75	(8.75)	22.8
「マラリア發熱時15例ノ平均	375.0	(26.6)	95.0
「ゴノワクチン酸熱時 5 例ノ平均	150.0	(0)	40.0
既往ニ「チフス罹患豫防接種及發熱 疾患ノ合併ナキ精神病89例ノ平均	67.98	(3.37)	25.28

即チ發熱時ニ於ケル平均凝集 度ハ健康ナル精神病患者89例ノ 平均凝集度ヨリ著シク高度ヲ示 シ,「マラリア療法時最モ 著シ ク,「ゴノワクチン療法時之ニ次 グ. 只「ズルフロール療法時ニ於

備考 検査患者ハ既往ニ於テ「チフス」罹患及豫防接種明ナラザル モノナリ、又()内ハ「50ー」ヲ零トシテ計算セシモノナリ、ケル「パラチフスB及ビ「ゴノワ

クチン療法時ニ於ケル「パラチフス A ハ殆ンド變化ナキカ或ハ稍低下ヲ示セリ. 診斷液ニ於テハ腸チフス」診斷液最モ凝集度高ク,次ハ「パラチフス B 診斷液ナリ. 「パラチフス A 診斷液ハ最モ低キ傾向ヲ有セリ.

第4章 考 按

非「チフス」性疾患ニ於テモ Widal 氏反應凝集價高度ヲ示ス場合アルハ多々報告セラレタル 處ナリ. Markuse, Krencker, 內田, 井上, 小杉, 山口, 須田, 三木, 前川, 矢部, 大城氏等 ハ結核=就テ報告シ、川口氏モ非「チフス」性有熱患者(肺結核,急性肺炎,加答兒性黄疸)64 例中50倍 37.5%,100倍25%,200倍 7.8%アリト述ベタリ、其ノ他格魯布肺炎,流行性脳脊髓膜炎,脳膜炎,發疹「チフス」,「マラリア」,ワイル氏病,赤痢,腎盂炎,「インフルエンザ」等= 於テモ屢々高度ナル凝集反應ヲ報告セラレタリ、

余ハ精神病患者=各種發熱療法ヲ施行シ、發熱時=於ケル Widal 氏反應凝集度ヲ檢セシニー般=治療前後ョリ高度ナルヲ認メ得タリ、而シテ斯ノ如ク非「チフス」性疾患發熱時ニ凝集度ノ上昇スル所以ハ恐ラク健常凝集素或ハ免疫凝集素(既往=於テ「チフス」罹患或ハ豫防接種アルモノニ對シ)ガ是等ノ療法時ニ於ケル熱、病原菌或ハ其ノ毒素ノ刺戟ニョリー時的ニ多量ニ生産セラレタル結果=因ルモノト思惟ス、

結 論

余ハ「ズルフロール」,「マラリア」及ビ「ゴノワクチン」等各發熱療法時 = 於テ其ノ 前後ノ Widel 氏反應ヲ檢査シ, 次ノ如キ結論 = 到達セリ.

- 1) 發熱時最モ凝集度高ク,次ハ治療後(2日-18日)ニシテ注射前最モ低シ.
- 2) 「ズルフロール發熱療法時ニ於テハ初期發熱時(1回—5回目發熱)ョリ後期發熱時(6回—13回目發熱)ニ於テハ僅ニ凝集度ノ上昇ヲ示シタリ.
- 3) 發熱時=於ケル各總平均ノ凝集度發熱的疾患ノ合併ナキ精神病患者89例ノ平均凝集度ョリ上昇セリ. 而シテ「ズルフロール發熱時ハ極ク 輕度ニシテ「マラリア」發熱時最モ 著シク次ハ「ゴノワクチン」發熱時ノ順ナリ.
- 4) 診斷液ノ各種類ニョル凝集度ハ腸チフス」診斷液最モ 高ク, 次デ「パラチフス」B診斷液ニシテ「パラチフス A 診斷液ハ殆ンド變化ヲ認メ得ザリキ.

擱筆スルニアタリ谷教授ノ御懇篤ナル御教示並ニ御校閱ヲ深謝ス.

文 獻

1) 吉岡正明, ウイダール氏反應= 就テ, 東京女醫學會雜誌, 第3卷, 第2號, 昭和8年. 2) 松山 翠, 腸「チフス」/ウイダール氏反應= 就テ, 日本醫事新報, 第702號, 昭和11年. 3) 山口海, 結核患者血清ノ「チフス」| 國菌凝集作用= 就テ, 満洲醫學會雜誌, 第46卷, 第4號. 4) 大域盛方, 凝集反應ノ診斷的價值= 陽スル研究, 臺灣醫學會雜誌, 第295號, 昭和4年. 5) 片山, 宮永, 特異性及ビ非特異性「チフス」凝集血清ノ差異= 就テ, 愛知醫學會雜誌, 第31卷, 第6號. 6) 佐々, 鈴木, 肺結核患者血清ノウイダール氏 反應= 就テ(第1回報告), 結核, 第2卷, 第2號. 7) 岡部保, 精神病及神經病患者128名ノ Widal 氏反應凝凝集度= 就テ, 十全會雜誌, 第43卷, 第1號.